



# 野の花新聞

No. 17 2011年10月号 「風子」

みなさま、こんにちは。

野の花の みなかた あきこ です。

秋まっさかり。風や空が透き通っています。夏の太陽に育まれた命が大きく育っていくような季節ですね。心の中の木にも 花が咲き、実がなり始めているような気がしませんか。

透き通った秋風の中を 自転車で走るのは気持ちいいですね。私の自転車、その名も「五代目・風子」は、買い物や仕事に欠かせません。坂だらけの神戸で、脚力も根性も強くない私が 自由自在に走り回れるのは、電動自転車・ふうこのおかげです。

不思議なことに、いや、まあ、不思議ではないのかもしれませんが、ふうこに乗ると 必ず歌ってしまいます。歌はその都度違って、オフコースだったり、都はるみだったり……。とにかく、乗った瞬間に 自然に出てくるのです。乗る前に耳にしていたり、関係のある事があったりしているわけではないので、どうも不思議で仕方ないのですが。先日は、どうしたことか、炭坑節が出てきて、市場に着くまで、「つきがー であつた であつた」と歌ってました。困るのは、誰もいないと思って いい気分であつた時に限って、後ろに自転車が来ていたりすること。どのへんから聞かれてたんだろうと 赤面……。

自転車に乗った時、頭の中のどんな引き出しが開くのでしょうか。もしかすると、ふうこが歌っているのでしょうか。今日は この歌を歌いたいなああと、駐輪場で 私を心待ちにしているのかもしれませんが。

ふうこの不思議その2は、一代目から通算すると35年ほど乗っているわけですが、一度も盗難に遭ったことがないことです。いや、まあ、これも不思議ではないのかもしれませんが、うっかり 鍵のかけ忘れや、カゴに荷物を置き忘れ、ということが結構あったのに、ふうこも荷物も置いた場所にそのまま待っていてくれるのです。

私がふうこを大好きだから ふうこも私を大好きで 一緒に歌いたくて だからいつも待っていてくれるのでしょうか。

そんなあほな、と思われるかもしれませんが、そう考えた方が断然楽しいです。

さあ、ふうこと一緒にでかけてきます。今日はどんな歌を ふうこは歌うのでしょうか。



くう

気持ちよさそうです……

すばるのベッドなんですけどね……

すばるが周りであらうろろしています

